資料１

令和５年度 板橋区住民防災組織活動方針

１　住民防災組織の重要性

東京では首都直下地震等の大規模地震災害が危惧されている中、令和３年10月には千葉県北西部において最大震度５強、令和４年11月には茨城県南部でも同じく最大震度５強の地震が発生するなど、関東においても大きな地震が頻発している。

また、近年では台風の上陸こそないものの、各地で集中豪雨による被害が激甚化している。地震や風水害のような広範囲にわたる被害が同時多発的に発生した場合、公的機関による対応には限界があり、被害の拡大を防ぐためには、地域住民の主体的な活動によるきめ細やかな対応が重要である。

この「共助」の基盤となる存在が住民防災組織であり、災害時には防災活動の中核を担う、欠かすことのできない存在である。住民防災組織が率先し、平時においても防災活動や日々の訓練に取り組み、地域の様々な団体と連携し活動を行うことにより、地域への防災に関する意識付けが進むことをめざしている。

なお、本年は、1923年（大正12年）に発生し、甚大な被害をもたらした関東大震災から100年の節目の年に当たる。その発生日である９月１日は「防災の日」として定められ、様々な訓練が行われるなど、改めて災害について学び、備えるための重要な日となっている。100年目に当たる本年、いま一度災害対策について見直し、考える契機としたい。

２　住民防災組織の活動目標

（１）自助・共助による災害時の体制強化

自分や家族の身を守ることにより、「救助される人」ではなく「救助する人」になるための自助の取組や、隣近所や地域でお互いに助け合う共助の取組を広げていくことで、自分の身は自分で、自分たちのまちは自分たちで守るという防災意識の醸成を図り、自助・共助の実効性を高めていく。

（２）防災知識及び技術の普及・啓発

防災訓練等を通じて家具類の転倒防止による家の中の安全対策、食料や水など

非常備蓄品の準備、情報収集・伝達手段の確保など、身近なことから取り組むことのできる防災知識や初期消火・応急救護など防災技術の普及・啓発を行うことにより、防災意識の向上を図る。

（３）地域で連携した防災活動

災害が起こったとき、自主防災組織は地域内でよりスムーズに連携し行動できるよう、学校やＰＴＡ、地域内にある事業所やマンションなどと協力し、災害時の連携を想定した訓練を行う。

３　住民防災組織に対する区の支援

（１）各種防災講習「区民防災大学」の実施

防災に関する基礎知識を習得し、地域防災の要となる防災リーダーを養成する「防災リーダー入門講習」や、不測の事態において命を救う技術を学ぶ「応急手当講習」、救出技術や初期消火技術などを学ぶ「防災資器材取扱講習」、避難所における実例を通して避難所生活を学ぶ「避難所関係講習」など、防災関連講習を各種実施する。

（２）防災セミナーによる防災意識啓発

区内で活動する各種団体が主催する防災に関する講座・研修会・学習会などに、防災の知識を有する専門の講師を派遣する。区民へ防災意識を啓発するため、「避難所運営ワークショップ」や、「防災マップづくり」、「マイ・タイムライン作成」など様々な講演内容・ワークショップを行い、広く防災に関する知識及び技術のより一層の向上をめざす。

（３）実践的な防災訓練・体験型の防災訓練の支援

避難所開設・運営訓練や災害時初動体制の図上訓練など防災訓練がより実践的となるよう支援する。また、大規模な地震の揺れを模擬体験することのできる起震車及び火災発生時の煙を模擬体験する煙体験ハウスを訓練に派遣する。

（４）住民防災組織への連絡体制の強化

令和元年の台風第19号の教訓を踏まえ、住民防災組織への情報伝達体制の強化を図るため、地域センターなどと連携し、迅速な情報伝達ができるよう訓練を行う。この他情報伝達訓練に加え、区防災メールへの登録の普及啓発を図る。

（５）防災ＤＸの推進による体験訓練の充実

ＡＲ（拡張現実）やＶＲ（仮想現実）といった最新デジタル技術により、手軽に消火体験や避難所体験などを行うことのできる機器を導入しており、地域の訓練などにおいて活用していく。

（６）いたばし防災＋（プラス）プロジェクトで防災を身近に

少し堅苦しいイメージのある「防災」に『楽しい』や『美味しい』といった付加価値をプラスすることで、これまで防災に興味のなかった人も巻き込んで地域全体の防災力を向上させる、板橋区独自の防災意識啓発プロジェクトである。新型コロナウイルス感染症の影響により、人が集まって行う訓練の実施が困難となったことに伴い、どこでも誰でもできる防災をテーマとして令和２年度より実施している。

【おうちで備えるキャンペーン】

日常的な災害への備えを推進するキャンペーンであり、区内ショッピングセンターと連携し、店舗において防災用品の特設コーナーを設置するなど啓発活動を実施する。

【いたばし防災＋（プラス）チャンネル】

これまで防災に興味の無かった世代も取り込むことのできるよう、楽しみながら防災知識を身に付けることのできる動画を様々な視点で作成し、YouTubeやインスタグラムで発信する。

【防災レシピ】

ローリングストックの啓発を目的に、備蓄食を活用したレシピを健康福祉センターの栄養士が開発している。それをレシピ集として発行し、区施設や区内

大型スーパー等で配布する。

【防災スマホ教室】

災害時の迅速かつ円滑な情報取得を目的として、スマートフォンの使い方が分からない方を対象に使い方を学ぶ講習を実施する。

【いたばしシェイクアウト訓練】

区内全域に防災無線をながし、地震発生直後の初動を確認する訓練であり、普段の生活からスムーズに災害時初動につなげることをめざす。

４　防災事業の実施

（１）総合防災訓練・・・令和６年３月 10 日（日）実施予定

東日本大震災による甚大な被害及び教訓を風化させないため、３月の第２日曜日に全 18 地区で実施する。より実践的かつ効果的な訓練内容になるよう、避難所開設訓練を取り入れるなど、各支部の町会・自治会長会議等の機会において訓練計画を協議する。

（２）いたばし防災＋（プラス）フェア・・・11 月 18 日（土）志村ブロックで開催予定

幅広い層に防災への意識を高めてもらうことを目的に、訓練コンテンツと集客コンテンツを提供する防災意識啓発イベントを開催する。ポストコロナを踏まえ、リアルとオンラインのハイブリッド開催とする。